

日本老年看護学会理事長ごあいさつ

錦秋の候となりました。会員の皆さまにおかれましては、研究、教育、看護実践に励まれていることと幸いです。さて、本会は昨年度より学術集会および総会を6月ごろに開催することになりました。例年、2月ごろに発行しておりました学会ニュースですが、今年度は10月と2月に発行予定であります。学術集会や総会のようすに参加されなかった会員の皆さまにより早くお伝えし、学会のさまざまな活動にご参加いただきたいと考えております。

とくに、今年度は生涯学習支援委員会および災害支援検討委員会を新しく立ち上げ、関連して地方会（仮称）について検討を進めてまいります。会員相互のネットワークを密にし、学会活動の活性化を図っていきたく考えておりますので、皆さまの本学会へのご協力、ご支援をお願い申し上げます。

理事長 太田喜久子

第17回学術集会報告

2012年7月14日（土）・15日（日）に、金沢歌劇座と21世紀美術館を会場として、「当事者学としての老年看護学の追究—高齢期を生きる人との交流—」のテーマのもと、第17回学術集会を開催いたしました。梅雨が明けて非常に暑い日となりましたが、参加者は1053名と多く、本学会員の幅広い活躍とともに、学会への期待の高まりが強く感じられる学術集会となりました。

本学術集会のテーマである「当事者」の視点は、会長講演「“当事者学”に触れて見直す老年看護学」、古在豊樹先生による特別講演「当事者としての市民科学」、野口美和子先生による教育講演「老年期の入り口に立って老年看護を考える」のなかで一貫して語られ、参加者が当事者の声を謙虚に受け止める重要性を深く考えることができたと思います。また、真田弘美先生による教育講演「トランスレーショナルリサーチと老年

看護学」では、これらの当事者の声に病態の視点を加え、療養を支える具体的方法として証明していくことの重要性を考えさせてくれました。

会場では口演52題、示説137題、交流集会10企画が開催されました。交流集会は入りきれない会場も続出してしまふほどで、今まさに問題となっている老年看護学の諸課題に対して活気溢れる討論がなされました。

最後を飾る一般公開フォーラム「認知症の人とともにつくるまちづくり」では、富士宮市在住の認知症の当事者である佐野光孝氏と、奥さまの明美氏、佐野氏を支える地域の保健師の久保田絵美子氏をお招きしてご講演いただきました。認知症を告げられたときの驚き、その後5年間の地域の人たちとともに歩んだ道のりの話から、「認知症の人とともにつくるまちづくり」を参加者全員で考えることができた講演でした。しかしそれ以上に、壇上でみせてくれた佐野氏の卓球のスマッシュは、認知症に負けない佐野氏の力強さを会場の皆さまにアピールでき、大きな感動を与えました。

このように、盛大に第17回学術集会を開催できましたのも会員の皆さまのおかげです。深く御礼申し上げます。

第17回学術集会長 石垣 和子

平成24年度総会報告

平成24年度の総会では、平成23年度の活動内容報告、平成24年度の事業計画の説明、名誉会員証授与、研究論文表彰を行いました。主な内容は以下のとおりです。

1. 平成23年度の主な活動内容

①日本老年学会活動の推進：日本老年医学会との共同研究「高齢者の摂食嚥下障害に対する人工的な水分・栄養補給法の導入をめぐる意思決定プロセスの整備とガイドライン作成」において、会員への調査、ガイドライン作成を行い、シンポジウムにて「認知症の人への終末期看護・看取り看護」について報告しました。

②日本看護系学会協議会 (JANA) との連携の推進 : 東日本大震災の支援活動の一環としてJANAと連携をとり、JANAと日本看護科学学会 (JANS) との合同事業である義援金の募集において、会員に協力を呼びかけ、義援金による災害看護支援事業への助成について情報を発信しました。

③会員拡大に向けた検討 : 入会にあたり、看護学研究業績を必要としていましたが、看護実践者の入会が難しい現状等を踏まえて、看護学研究業績または理事・監事・評議員の推薦を得ることを入会の要件とすることに変更しました。

2. 平成24年度の主な事業計画

学術集会の開催や学会誌の発行、老年看護学にかかわる研究・教育活動の推進、老年看護の制度・政策等に関連する事業の推進等の活動に加えて、生涯学習委員会、災害支援検討委員会の発足、地方会立ち上げの検討について報告をしました。

①生涯学習支援委員会 : 平成23年度の研修委員会準備委員会において作成された枠組みをもとに、老年看護に携わる会員および非会員に対し、老年看護の実践能力を高めるための生涯学習支援事業を計画、開始します。

②災害支援検討委員会 : 東日本大震災への支援における学会活動「東日本大震災支援プロジェクト」を踏まえ、今後起こりうるさまざまな災害に迅速に対応できるシステムを構築します。

③地方会立ち上げの検討 : 上記の両委員会活動を推進するために、学会全体を地域ブロックに分割して運営する「地方会」の立ち上げについて準備をします。

3. 名誉会員証授与

中島紀恵子前理事長に対し、日本老年看護学会名誉会員証が授与されました。

4. 研究論文表彰

第5回研究論文表彰の発表が行われ、下記の受賞論文1題に対し、賞状・副賞が授与されました。

<研究論文奨励賞>

特別養護老人ホームで「より良い看取り」を実施するための取り組み—研究者と実践者との共同による
ミューチュアル・アクションリサーチ—

小山千加代

第16巻1号, p38-47, 2011.

その他議事の詳細は、学会ホームページに掲載しております。

■役員選挙の経過報告

現在、平成25年度～27年度の役員選挙を行っております。評議員選挙の投票は10月4日に締め切り、投票率は31.8%でした。11月には評議員予定者による理事・監事選挙が行われる予定となっております。

■日本老年看護学会研究倫理ガイドラインを作成しました

編集委員会および理事会で検討してまいりました「研究倫理ガイドライン」をホームページにアップいたしますので、ぜひご活用ください。

■地域のネットワークをつくっていきましょう

7月に行った評議員会の終了後に、地域ごとに評議員が集まり意見交換をしました。地域ごとに会員数にばらつきがあり、会員相互のネットワークの実情もさまざまです。評議員からは、「地域にある看護系の大学の教員に、老年看護学会のリーフレットを配って会員拡大から始めよう」「メーリングリストをつくって情報を共有したい」「学習会を行いたい」「会員にどんなニーズがあるのか分からない」「現在の地域割では、範囲が広く活動しにくそう」などの意見が聞かれました。

平成24年度の本会の活動に「地方会の検討」があります。平成24年度役員選挙は、「1. 北海道東北」「2. 関東甲信越」「3. 東京・神奈川・海外」「4. 東海北陸」「5. 関西」「6. 中国四国」「7. 九州沖縄」の7つの地区割で評議員選挙を行いました。各地区の定数を合計すると67名の評議員が選出される予定です。各地区の評議員を中心に会員のネットワークを広げて、顔の見える関係をつくり、情報交換や災害などの助け合いにつなげていきたいと思っております。理事会では、このような組織の名称も含め、会の規定や活動について検討しております。評議員・会員の皆さまのご意見を広く募集いたします。ご意見のある方は、学会事務センターまたは理事までご連絡ください。

■学会誌編集委員会より

学会誌第17巻1号を11月末に発行予定です。7月の学術集会の会長講演や特別講演などを特集として掲載いたします。次の第17巻2号は9月30日に投稿を締め切り、現在査読中です。投稿は随時受け付けておりますので、ぜひお寄せください。

■老年看護政策検討委員会より

看保連が、一般社団法人になり、「一般社団法人看護系学会等社会保険連合」という名称になりました。看

保連では、平成26年度診療報酬改定に向けた意向調査を行いました。本学会としては老年看護技術について理事・監事・評議員へのメール調査および学術集会参加者よりご意見をいただき、整理して提出いたしました。

日本看護系学会協議会を通して、厚生労働省の「看護師特定能力認証制度案」に関するパブリックコメントについて検討し、老人看護CNSの皆さまのご意見をいただき、整理して提出いたしました。今後もこの動きに注目していきたいと思えます。

研究・教育活動推進委員会主催:ワークショップ
— 参加者の声より —

ワークショップのテーマは、「老年看護学の研究・教育者のキャリアプランについてみんなで考えよう～老年看護学の知の発展と実践の向上にむけ、共に成長してゆくために」でした。今回、参加を促された「若い世代」にとっては一見敷居の高い内容に思えましたが、実際に参加してみるとさまざまなことを吸収させていただき、思い切って参加してよかったと思えました。

まずは、ワークショップ趣旨説明のなかに「老年看護学が学問として一気に成長するために必要な研究者のcritical massができてつある」とありました。

「critical mass」とは、「(ある結果をもたらすのに)必要な量」という意味です。量がクリアされたのであれば、当然の流れとして次に「質」の担保が必然だということで、本会では老年看護学が学問として発展するかどうかの過渡期ととらえ、その時期に必要な戦略を考えているように思えました。今回は「キャリアパス」「キャリアプラン」という概念を用いて、モデルケースとなる、2名の先生方の体験談や価値観をうかがう機会が設けられました。東京医科歯科大学大学院の深堀浩樹先生からは、フルブライト奨学金「研究員プログラム」を活用した、ペンシルバニア大学研究留学の紹介がありました。ペンシルバニア大学におけるキャリアパスの概要が紹介され夢見心地で聞いていた部分もありましたが、その大学が世界大学ランキングでトップ10に入るような名門大学であることを後から知ったというエピソード等を加えてくださったので親近感をもって聞くことができました。

また、東京大学大学院の山本則子先生はご自身のたどってこられたキャリアを惜しみなく紹介くださいました。所属、研究テーマ、研究費獲得、家族のこと等を関連づけて、またキャリアプランとして意味づけてお話くださいました。単に先生方の華麗な経歴ととら

えるだけでなく、お2人に共通して、自然な流れのなかでキャリアを積み上げていくためには、意思をもつことがいかに大切であるかが伝わってきました。時には好奇心をもって自分を奮い立たせて勇気をもって行動すること、質の高い情報の選定、所属大学の位置づけ、仲間、同僚など他者の力を十分見極めて行動すること。レベルの差はあっても、今後、自分でも実際に行動できるようなヒントをたくさん得ることができました。また、グループディスカッションでは、1グループ5人で「老年看護学研究・教育者としてのキャリアパス」「老年看護学発展のための研究テーマの設定と研究実践」について紹介し話し合いましたが、それらの現状と課題については、共通点をもつメンバーもいましたが、改めて所属大学や職位等の背景や期待されている役割などによって随分差があることも理解できました。以上、ここでの体験を今後活かしていこうと思えます。

善生まり子 (埼玉県立大学)

学会メールマガジン配信登録のお願い

本会では、会員の皆さまへの情報提供として、「メールマガジン」配信(月1回程度)を活用していく予定です。9月28日には、評議員選挙投票の呼びかけとして、「日本老年看護学会 メールマガジン 第1号」を発行いたしました(メールマガジンは登録いただかない限り配信できません)。

現在の配信登録者は約460名ですが、今後は、さらに最新の情報等を発信していく予定でおりますので、配信登録がお済みでない方は、下記登録方法をご参照のうえ、ぜひご登録くださいますようお願いいたします。

<メールマガジン配信登録方法>

配信を希望するメールアドレス(勤務先または自宅)より、下記学会事務センター宛てに、必要事項をメール本文にご記入のうえ、メールを送信してください。

- ・メール送信先：日本老年看護学会事務センター
rounenkango@nqfm.ftbb.net
- ・必要記入事項(メール本文)：ご氏名、会員番号、メールマガジン配信希望の旨
- ・その他：配信エラーを防ぐため、学会事務センターのメールアドレスをアドレス帳にご登録ください。登録したにもかかわらず、メールマガジンが届かない方は、学会事務センターまでご連絡ください。

日本老年看護学会第 18 回学術集会のお知らせ

平成 25 年度の第 18 回学術集会は日本老年学会（7 学会）による合同学会となります。

- 会 期：2013 年 6 月 5 日（水）～6 日（木） *6 月 4 日（火）は日本老年学会合同プログラムを開催
- 会 場：大阪国際会議場（〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島 5-3-51）
- テーマ：輝く老いを拓く老年看護学の構築
- 学術集会長：小西美智子（岐阜県立看護大学学長）
- プログラム（予定）：
会長講演，特別講演，教育講演 1・2，シンポジウム 1・2，ランチョンセミナー 1・2，ワークショップ，
交流集会等
- 演題登録（一般演題，交流集会）について：
 - ・登録期間：2012 年 12 月 10 日（月）～2013 年 1 月 25 日（金）
 - ・登録方法：学会ホームページより「抄録作成フォーマット」をダウンロードし，抄録を作成のうえ，
演題登録画面よりご登録ください（詳細は，学会ホームページにてご確認ください）。
- 参加申込について：
事前参加申し込みは，2013 年 4 月 30 日（火）までです。事前申し込みへのご協力をよろしくお願
いいたします（2012 年 11 月下旬に，学術集会ご案内および参加費振込用紙を送付予定です）。

<参加費>

	会 員	非会員	学生（大学院生は除く）
事前申込	10,000 円	12,000 円	5,000 円
当日申込	12,000 円	12,000 円	5,000 円

<事前参加申込方法>

下記郵便振替口座に，参加費をお振り込みください。

- ・加入者名：日本老年看護学会学術集会事務局
- ・口座番号：00100-4-734268

【日本老年看護学会第 18 回学術集会事務局】

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル 2F（株）ワールドプランニング内

Tel：03-5206-7431 Fax：03-5206-7757 E-mail：rounenkango@nqfm.ftbb.net

* 日本老年看護学会ホームページ <http://www.rounenkango.com>

【編集】総務（広報）担当理事：大塚真理子，広報補助：丸山 優，善生まり子

【発行】日本老年看護学会事務センター

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル 2F（株）ワールドプランニング内

TEL：03-5206-7431 FAX：03-5206-7757

E-mail：rounenkango@nqfm.ftbb.net URL：http://www.rounenkango.com/

